

真言宗の基礎知識（その四十一）

（弘法大師）

前回、人間空海と弘法大師（お大師さま）を分けて書きました。真言密教の考え方は、生きる限り必ずやってくる死が、間違いなくあるわけですが、一方で自己は常に他者によって生かされているものです。

認識できていなくても、私たちは大宇宙の一員であり、宇宙は生と死を繰り返しながら、全体としてはそれさえ超越して存在をしています。密教の曼荼羅（まんだら）はその宇宙をシンボルとして描かれており、私の命は自分だけのだけのものではなく、生も死も苦も楽もすべて内包して過去から現在、未来へと流れているのです。

人間空海の章が西暦八三五年に完結した後、二十二年後に当時の文徳天皇は「大僧正」の位を、その七年後には清和天皇は「法印大和尚位」を贈られています。そして御入定後八十六年の延喜二十一年十月二十七日には当時の醍醐天皇より「弘法大師」の名前が贈られました。この弘法大師の名前は人間空海への「贈り名」ではありませんが、空海上人だけの功績ではなく、お弟子の方々や大勢の名も無き民衆などの願いでもあったのです。

伝説には醍醐天皇の夢枕に現れて次のような歌を詠まれたとされています。「たかのやま 結（むす）ぶいおりに袖（そで） 朽（く）ちて こけの下にぞ ありあけの月」意味は、私空海は今でも高野山で深い座禅に入っており、衣はすっかり朽ちてしまいました。しかし満月のごとく今でも人々の心に寄り添っています。

令和二年お盆づとめについて

今年もお盆の時期が近づいてまいりました。現在の状況をふまえ今年一日あたりのお参り軒数を半減し、スケジュールに余裕を持たせて七月二十二日から八月末日までの期間で、お盆勤めを実施したいと存じます。体調管理に努めてお参りしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。予定は左記の通りですが、七月十一日のお施餓鬼法要から個別受付を開始します。なお、七月十二日から二十三日の夜七時から九時の間にお寺から電話にて日時のご相談をさせていただきます。持病などをお持ちで不安のある方は、今年はお参りを控えますので、ご相談ください。

・毎朝検温し、お伺い前には携行するアルコール消毒液で手指の消毒を行い、体調管理や感染症予防に努めます。  
・読経はマスクを着けて行います。

- 七月二日～三日 個別早期希望者・大門町一～七丁目・城興ヶ丘
- 八月 一日 東谷 八月 七日 曙・新涯・川口・手城
- 八月 二日 中谷・駅前・西谷 八月 八日 引野・蔵王・福山東部
- 八月 三日 横道・吉浜・能島 八月 九日 福山市西部・尾道・三原
- 八月 四日 幕山・大谷 八月 十日 幕山台・大谷台・伊勢ヶ丘
- 八月 五日 石樋・引野古地 八月 十一日 笠岡・倉敷・福山市東部
- 八月 六日 大門町南部 八月 十二日 福山市北部
- 八月十三日～十五日 新仏・特別供養の方
- 八月十六日～三十一日 福山市全域で時間指定を希望される方

上之坊だより

令和2年7月1日 第87号

福山市大門町大門325 電話 (084) 941-1031 fax (084) 941-1168



弘法大師聖語抄

孤雲 定む処無し、本より高峰を愛す  
人里の日知らず、月を観て青松に臥せり

「雲は一つのところには留まるかも知れません。自由に飛らず、高い山が似合う。私も 行機や車で動く事も難しい街の日々より、山中で月を見合も出てきそうです。これながら修行をつづけたい」とらの時代は自然災害やウイルスのお大師さまは書かれ、町の喧騒を離れた自然の静寂での瞑スなどの危険が身近にあり、想を好まれました。先の見通しが立たない時代になるかも知れません。

いま、コロナ禍が世界を覆い、社会の形を変化させて来ています。人が集まって賑わうことはしばらく出来なくなっています。そんな時こそ、すべきことを怠らず内省を続け、信念をもって大切な今を有意義に過ごしたいものです。

お施 餓 鬼 法 要 の ご 案 内

おせがき（ロウソク）法要を七月十一日（土）夕方六時三十分より行います。

この法要は灯明・食物やお水をお供えして、多くの諸精霊の成仏を祈る法要で別名を「施食会」とも言われています。

地獄や餓鬼道に墜ち、飢えや渇きの苦しみで成仏できない精霊に水や食物を供えて成仏できるように願い、また最近亡くなられて間もない仏様には一層の菩提の安らかなる事を祈る法要です。

お盆には各地でいろいろな供養の行事が催されますが、このおせがき法要がその一番最初の姿であり、亡くなった方への供養として、大変長い歴史を持つ由緒ある儀式であります。

今も多くのお寺で続けられているおせがき供養ですが、上之坊では亡くなられて三年くらいまでの仏様を中心に、有縁無縁（うんむえん）の三界万霊への供養をいたします。

午後六時半に夕勤行を始めて夕暮れを待ち、読経をして、経木塔婆（きょうぎとうば）に水をかけて回向をし、最後にロウソクに点灯をします。

新仏（しんぼとけ）様などで特別に成仏をお祈りいただく場合は、これに二尺半の施餓鬼塔婆をお墓にたてていただくよう用意いたします。できましたら前日までに電話でお知らせください。

このときの志納金は五千円です。（記念品とお菓子付）  
また一般参拝の方は経木塔婆とロウソクをお渡ししての供養となります。一家族二千円をお願いいたします。（お菓子付）

この一般受付は当日十三日夕方六時十五分より開始いたします。この法要終了後、今年のお盆勤めの日時のご希望を受けます。お盆に近い八月中旬にご希望の方はお残りいただき、ご相談をしたいと思います。

これからのお寺（新型肺炎流行を経て）

今年二月の節分星祭りには約二百四十名の参拝の方にお越しいただき、活力に満ちた祈りの時を過ごされました。しかしその後から各地でコロナ肺炎の感染が広がり、ご存じのとおり非常事態宣言になりました。

お寺の行事であった三月十七日からの四国巡拝も、二月下旬すでに十数名の方々から参加のご連絡を頂いておりましたが延期いたしました。コロナ禍が一段落すれば十一月の高知の予定をそのまま徳島に変更して実施をいたします。

コロナウイルス予防のため、四月上旬からはマスクをつけての読経が当たり前になりました。マスクをつけての読経は息がしっかり吸えず、随分しんどいことが分かりました。また、葬儀でも参拝する方が減って、コロナ禍が大流行している時期は他県にいる喪主でさえ顔を見ることがなく葬儀が行われていました。法事でも親族の方が遠いなどで約二割が中止となり、今までは法要の後に会食する形式が多かったのですが、三月後半からは殆どなくなりました。今後、人が集まる事が難しくなる時代が続けば、供養がずいぶん難しくなるかもしれません。

先日、ある壇家の方の法事では本堂での勤行の間、ずっと携帯電話をつけてカメラで中継をされていました。お参りできなかったご兄弟にご自宅からオンラインで参加をしていただきました。

お寺の星祭りや土砂加持などで、大勢の人が集まる法会をどうしたらいいのでしょうか。法要の様子をホームページのYouTubeで生配信をするような時代がくるのでしょうか。

できるだけ同じ場所と同じ時間にご一緒にお勤めができることが望ましいと思いますが、将来はどのような事も考えることになるのかも知れません。幸い平成三十一年一月から始めた毎月の護摩祈願法会は、少人数の参加であり、参加されるお一人お一人がより深くご縁を深めることができる良い機会となっております。

今年のお盆づとめも大勢のお宅にお伺いするため、接触を避けたほうが良いと思われる方もいらっしゃるかと存じます。皆様のご希望も聞いて、あまり過密なスケジュールを組まないよう、今まで以上に期間を広げて七月下旬から八月いっぱいにかけて回ろうと考えております。また、四国八十八ヶ所めぐりもコロナが流行していないことを前提に、春に行けなかった徳島県を秋十一月に再開しようと考えております。これからの世の中がどのように変化するか分かりませんが、前向にできることを続けていこうと考えております。

いままでの行事

三月十七日、四国巡拝

十一月十七日に延期

三月二十日、彼岸勤め

ご希望の方も中止

五月十日、観音講例祭

規模を縮小して役員のみで勤行を実施

五月十四日、高野山参拝

来年五月へ順延

五月二十一日、上之坊散策

冬以降又は来春に順延

これからの行事

七月十一日、お施餓鬼

実施（形式を変更予定）

七月二十二日、お盆勤め

期間を広げて希望実施

毎月第四土曜、護摩祈願

一時半より毎月実施